

第 15 回錯視・錯聴コンテスト応募作品

応募者

慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士課程 2 年 尾寺 美音
慶應義塾大学環境情報学部専任講師 森 将輝
慶應義塾大学環境情報学部准教授 仲谷 正史

連絡先 ※ _を@に変えてください

森 将輝 (morima_sfc.keio.ac.jp)

仲谷 正史 (mn2598_sfc.keio.ac.jp)

作品タイトル

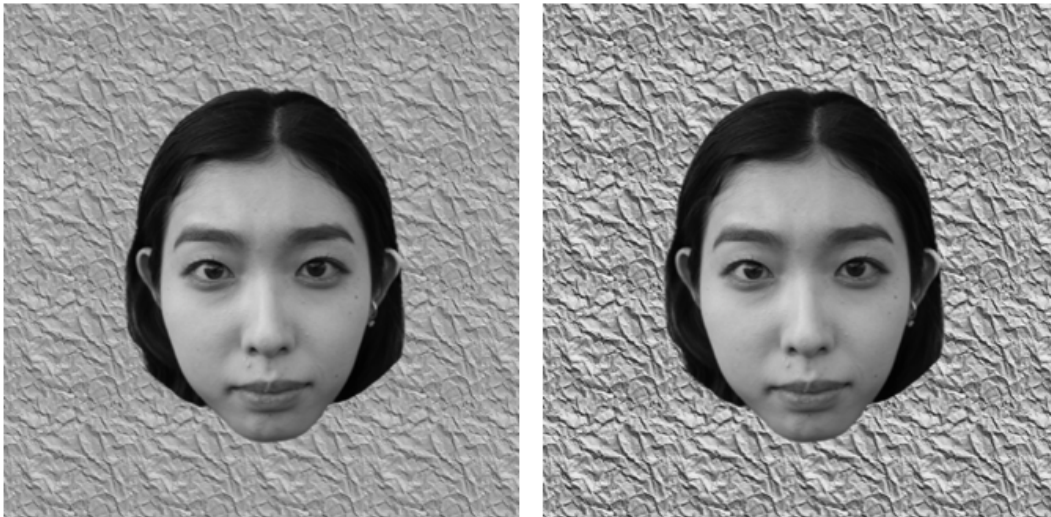
誰でも彫り感増大錯視

解説

どちらの画像の方が彫りが深く見えるでしょうか？

※画面を明るくしてみることを推奨します。

1. 画像 1



右の方が彫りが深く見える

女性の画像は同じですが、背景の凹凸のコントラストが高い右側の方が、顔がくっきりと、彫りが深く見えます。

2. 画像 2



男性の画像でも生じる現象である

こちらでも男性の画像は同じですが、右側の方が彫りが深く見えます。性別や骨格にかかわらず、本錯視は一貫して生じるのかもしれませんが。

3. 画像 3



福澤諭吉像でも生じる現象である

福澤諭吉像の場合でも、彫り感錯視が生じました。顔の彫りだけでなく、顔の皺も濃く見えます。

4. 最後に

彫り感錯視は、先行研究[1]で得られている知見（背景画像の輝度コントラストが大きくなると、背景の中央に配置したガボールパッチのコントラスト検出感度が低下すること）が、異なる視覚現象であるように思います。

触覚では、Fishbone Tactile Illusion[2]のように、周囲の凹凸情報により対象の形状知覚が変わることが知られていますが、視覚でも同様のことが生じるのかもしれませんが。

我々は、本現象が明るさの対比[3]で説明可能か、顔に特有な現象であるかに関心を抱いています。

参考文献

- [1] Hayasaka, M., Nagai, T., Yamauchi, Y., Sato, T., & Kuriki, I. (2022). Luminance contrast detection is optimized for the large - scale luminance texture of the surround. *Color Research & Application*, 47(2), 271-287.
- [2] Nakatani, M., Howe, R. D., & Tachi, S. (2011). Surface texture can bias tactile form perception. *Experimental Brain Research*, 208, 151-156.
- [3] 杉原厚吉, 「錯視図鑑～脳がだまされる錯覚の世界～」, 誠文堂新光社, 2012 年